

杉本豊久先生の御退官に寄せて

岡 本 摩 耶

1999年6月、20歳の私は「ホノルル市長杯第29回全日本青少年英語弁論大会（大学の部）」の全国大会に出場するために、会場となる東京・九段会館にいました。帰国子女や留学生、英文科の学生などいわば「英会話の精鋭」が集うこの大会に、普段は実験室の片隅で試験管を振っている私が地方予選を勝ち抜いて出場する目的はただ一つ。

審査員の一人、杉本豊久先生にお会いすること。

当時の杉本先生は、NHKのテレビ英会話でシャーロック・ホームズを題材とした講座を担当されたり、某社のコマーシャルに出演されたりと、一世を風靡しておられました。お上品なテディベアを思わせるようなお顔立ち(?)から、私の周りでも随分と多くのファンがいたことを記憶しています。

大会終了後、記念品の大きなトロフィーを両親に押し付けた私は、審査員控室に引き上げられる先生を追いかけ、廊下で呼び止めることに成功しました。

「杉本先生!いつもテレビで拝見しています。大ファンです!サイン下さい!!」

若いというのは恐ろしいものです。ご挨拶も審査のお礼もすっ飛ばして、持参した色紙を差し出しました。一瞬驚いた表情を浮かべられた杉本先生でしたが、すぐにニコリと微笑んで「何て書こうかな・・・」とし

ばらく考えられた後、with best wishes, Toyohisa Sugimoto と書いて下さいました。このサインは、15年経った今でも大切な宝物です。

この「事件」をきっかけに、先生には、その後神戸大学医学部の博士課程に進学した私の研究テーマである乳幼児突然死症候群に関する調査研究にご協力頂いたり、私には思いもよらないような様々な視点から有用なアドバイスを頂戴したりと、随分とお世話になり現在に至ります。先生にとっては、奇妙な腐れ縁の始まりだったかも知れませんが、私にとっては、まさにメンターとも言えるべき人との出会いでありました。

現在、私は文部科学省の科学技術・学術政策研究所というところで、科学技術人材の育成やキャリアパス構築、並びに国際流動性に関する調査研究を行っています。近年、私たちの日常生活や社会の基盤となる科学技術の高度化・複雑化に伴い、科学技術人材の活躍の重要性が叫ばれています。今後、日本が科学技術による成果やイノベーションを継続的に生み出していくためにも、大学や公的研究機関、民間企業など様々なセクターにおいて世界をリードできるグローバル人材の育成にこれまで以上に力を注ぎ、その能力を余すところなく発揮できるような環境を整えていかなければなりません。

このようなグローバル人材の育成に不可欠とされるのが、世界と対等に渡り合える語学力、とりわけ英語によるコミュニケーション能力です。

文部科学省では、単に英語そのものだけでなく、背景にあるそれぞれの文化や社会問題を理解し、それを踏まえた上で英語による質の高い議論を展開し、多くの分野で自らの活路を見出していくことが出来る「次世代型グローバル人材」の育成を目指し、様々な教育プログラムを展開しています。

そのような流れの中で、杉本先生は比較的早期から「現代英語の多様性」をテーマに、学生に対して質の高いディスカッションを課し、「自ら課題

を設定し解決する能力」を涵養して来られたとのこと、まさに次世代のグローバル人材育成の先駆者でいらっしゃるのだと今更ながらに感嘆しています。御趣味の一つと伺っていた卓球においても、いつの間にか国際審判員の資格を取得して大活躍しておられたり、ご実家の広大な畑をトラクターで耕しておられる最中に、「ボクねえ、今まさに、地球を耕しているんだよ！君も実験室にばかりこもってないで、一度出てきて土の匂いをかいでみなさい！！今なら野菜も無料だよ（笑）」とお電話を下さったり。先生には本当に驚かされることばかりです。

このようなアクティブな杉本先生が御退官になるということは、成城大学の皆様にとりましても大きな痛手であろうことと拝察致します。しかし、先生から教を受けた多くの学生達によって、「学び」というものに対する真摯な姿勢は脈々と受け継いでいかれるものと思います。

最後になりましたが、杉本先生におかれましては、御退官後もどうぞお元気で、英語教育や卓球をはじめ、多方面において引き続き御活躍下さいますことを心よりお祈り申し上げます。with best wishes, Maya Okamoto